



目次

連絡先	2
動作環境	3
はじめに	4
パーソナライズされた V-Station PowerCore プラグインの取得方法	4
V-Station PowerCore のインストール (OS X)	6
V-Station PowerCore のインストール (Windows XP)	6
V-Station を使用する	7
MAIN (メイン) パネル	7
OSCILLATORS (オシレーター)	8
MIXER (ミキサー)	9
FILTER (フィルター)	10
MOD ENV (モジュレーション・エンヴェロープ)	10
AMP ENV (アンプリチュード・エンヴェロープ)	11
LFO 1 / 2	11
MASTER (マスター) セクション	12
ARPEGGIATOR (アルペジエーター)	13
PORTAMENTO (ポルタメント)	13
EFFECTS (エフェクト)	14
プログラムとバンク	15
プログラムの選択	15
プログラムの保存	15
バンクのロード/セーブ	15
ロード/セーブについて	16
サウンドのエディット	17
MIDI クロック・シンク	18
その他のページ	19
EXTRA (エキストラ) ページ	19
CONTROLS (コントロール) ページ	20
GLOBAL (グローバル) ページ	21

連絡先

本製品についてのお問い合わせは、info@tcelectronic.com（英語）までご連絡いただくか、各国の TC 支社または輸入代理店までご連絡ください。

TC ELECTRONIC A/S
Customer Support
Sindalsvej 34
Risskov DK-8240
Denmark

www.tcelectronic.com

USA:

TC ELECTRONIC, INC.
5706 Corsa Avenue, Suite 107
Westlake Village, CA 91362
USA

www.tcelectronic.com

email: support@tcelectronic.com

© Novation E.M.S Limited 2004。V-Station PowerCore 「Getting Started」ユーザーガイド、バージョン 1.0。製品の改良のため、機能及び仕様は予告無しに変更となる場合があります。全ての商標の所有権は、それぞれの所有者に帰属します。www.novationmusic.com。

TC SUPPORT INTERACTIVE

TC Support Interactive は、オンラインのサポート及び情報提供のためのウェブサイトです（英語のみ）。TC ソフトウェアに関する一般的な質問の解答を、製品／カテゴリー／キーワード／フレーズから検索可能です。一度サイトで登録を行えば、「My Stuff」セクションから、質問の状況を調べたり、ソフトウェアのマニュアルやアップデート、プリセット等のダウンロードも行えます。データベースは常に更新されており、TC 製品に関する最新の情報が満載です。お求めの情報がデータベースにない場合は、質問を提出することも可能です。この場合は、TC のテクニカル・サポートのスタッフが電子メールでご連絡させていただきます。

※ 2004 年 11 月現在、TC Support Interactive は英語のみのサービスとなっております。

動作環境

WINDOWS

- POWERCORE PCI / ELEMENT、FIREWIRE、あるいは COMPACT（バージョン 1.9 以降）
- Windows XP
- Pentium III 1 GHz 以上
- 最低 256MB の実装 RAM
- VST 対応のホスト・アプリケーション
- ホスト・アプリケーションの推奨動作環境

MAC OS X

- POWERCORE PCI / ELEMENT、FIREWIRE、あるいは COMPACT（バージョン 1.9 以降）
- Mac OS X（10.2.8 以上）
- G4 / 800MHz 以上
- 最低 256MB の実装 RAM
- VST あるいは Audio Units 対応のホスト・アプリケーション
- ホスト・アプリケーションの推奨動作環境

はじめに

この度は、Novation V-Station PowerCore ソフトウェア・シンセサイザーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。V-Station PowerCore ヴァーチャル・アナログ・シンセサイザーは、K-Station のパワフルでリッチなサウンドを OS X あるいは Windows 上のプラグインとして再現します。

V-Station は Novation 社の「Liquid Analogue」シンセシス・エンジンをコアとして、無限のクリエイティブなポテンシャルを秘めたリッチで高密度のサウンドを実現します。V-Station は、重要なサウンド・シェイピング用のコントロールを網羅し、この特徴を、わかりやすくレスポンスの良いフロントパネル・インターフェイスと組み合わせています。

主な機能

- * 3 系統のオシレーター
- * ノイズ・ジェネレーター
- * リング・モジュレーター
- * 「Liquid Analogue」レゾナント・ローパス・フィルター
- * ADSR エンヴェロープ・ジェネレーター×2
- * MIDI シンク対応マルチ・ウェーブ LFO ×2
- * ポルタメント
- * アルペジエーター
- * 6 系統同時使用可能なマルチエフェクト
- * ホスト・シーケンサー上で複数の同時起動が可能 (*)
- * K-Station との間で音色の転送が可能

(*) 同時に起動できる数は、使用できる PowerCore のプロセッシング・パワーに依存します。DSP の空きが多い程、多くの数を同時に起動できます。

インターネットに接続された DAW で パーソナライズされた V-Station を取得する方法

1) オーディオ・ワークステーションがインターネットに接続されている場合は、V-Station PowerCore CD を挿入し、プラグインのインストーラ・アイコンをダブルクリックします。セットアップの起動画面が表示されます。「Continue」(続ける) ボタンを押します。

2) 「Plug-In Setup」(プラグイン・セットアップ) のダイアログボックスが表示されます。「Next」(次へ) をクリックします。

3) a. プラグインのシリアルナンバーを記入します。シリアルナンバーは、V-Station PowerCore の化粧箱に記載されています。 b. 有効なメールアドレスを記入します。このアドレスに、パーソナライズされた V-Station PowerCore プラグインのダウンロード・リンクが送られます。

PowerCore デバイスのオーセンティケーション ID は自動的に認識されます。複数の PowerCore デバイスが接続されている場合は、オーソライズする PowerCore を選択できます。PowerCore システムでは、ソフトウェアがオーソライズされた PowerCore が接続されていれば、同じシステム上にあるその他の PowerCore デバイスでもそのプラグインを使用できます。そのため、例えば PowerCore PCI と Firewire を併用している場合は、PowerCore Firewire にオーソライズを行なうことをお勧めいたします。

4) デフォルトのインターネット・ブラウザー上で、TC ウェブサイトのプラグイン・ダウンロード・ページが開きます。入力情報が正しいことを再確認してください。特に、電子メールのアドレスにはお気をつけください。「Request Download」(ダウンロード・リクエスト) を押します。TC から、記入した電子メールのアドレス宛に、パーソナライズされた V-Station PowerCore のダウンロード・リンクが送られます。

DAW がインターネットに接続されていない環境で パーソナライズされた V-Station を取得する方法

1) オーディオ・ワークステーションがインターネットに接続されていない場合でも、V-Station PowerCore をインストールすることは可能です。インターネットに接続された他のコンピュータと、有効な電子メールのアカウントが必要です。

2) V-Station PowerCore CD をオーディオ・ワークステーションの CD ドライブに挿入し、プラグインのインストーラ・アイコンをダブルクリックします。

3) セットアップの起動画面が表示されます。「Continue」(続ける) ボタンを押します。

4) 「Plug-In Setup」(プラグイン・セットアップ) のダイアログボックスが表示されます。「Off-line」(オフライン) をクリックします。

5) 「Plug-in Download」(プラグイン・ダウンロード) のダイアログボックスが表示されます。「Install」(インストール) ボタンをクリックします。DAW に、V-Station PowerCore が必要とする追加ファイルがコピーされます。このウィンドウに、他のコンピュータからパーソナライズド・プラグインを取得する方法が表示されます。

6) V-Station PowerCore の化粧箱に記載されているプラグインのシリアルナンバーと、PowerCore のオーセンティケーション ID を書き控えます。複数の PowerCore デバイスが接続されている場合は、オーソライズする PowerCore を選択できます。PowerCore システムでは、ソフトウェアがオーソライズされた PowerCore が接続されていれば、同じシステム上にあるその他の PowerCore デバイスでもそのプラグインを使用できます。そのため、例えば PowerCore PCI と Firewire を併用している場合は、PowerCore Firewire にオーソライズを行なうことをお勧めいたします。

7) インターネット接続が行えるコンピュータでウェブ・ブラウザを開き、次の URL にアクセスします：
www.tcelectronic.com/requestplugin

PowerCore のオプション・プラグイン・ダウンロード・ページが開きます。「Request Authorized V-Station PowerCore」オプションを選択します。全ての情報を記入し、記入した情報を確認したら「Request Download」ボタンを押します。記入した電子メールのアドレス宛に、パーソナライズされた V-Station PowerCore のダウンロード・リンクが送られます。メールを確認し、そこに含まれるダウンロード・リンクをクリックすると、プラグインがダウンロードされます。ダウンロードしたファイルをリムーバブルのメディア (CD-R、フラッシュ・ディスク、外部ハードディスク等) を経由して、オーディオ・ワークステーションに移動します。

V-Station PowerCore のインストール (OS X)

1) 電子メールで取得したダウンロード・リンクをクリックします。オーディオ・ワークステーションがインターネットに接続されている場合は、ダウンロードが自動的に開始するはずですが、V-Station を異なるコンピュータにインストールする場合は、ダウンロードしたファイルをリムーバブルのメディアを使用してオーディオ・ワークステーションに移動してください。プラグインのインストーラは、ファイルサイズの節約のために、圧縮されています (解凍するには、WinZip や Stuffit Expander 等のツールが必要です)。

2) ファイルを解凍したら、「V-Station PowerCore Installer」を起動します。

インストーラは、V-Station PowerCore の Audio Unit 版をシステム・ドライブ上の次の場所にコピーします：

```
/LIBRARY/AUDIO/PLUGINS/COMPONENTS/
```

V-Station PowerCore の VSTi 版は次の場所にコピーされます：

```
/LIBRARY/AUDIO/PLUGINS/VST/POWERCORE
```

V-Station PowerCore のインストール (Windows XP)

1) 電子メールで取得したダウンロード・リンクをクリックします。オーディオ・ワークステーションがインターネットに接続されている場合は、ダウンロードが自動的に開始するはずですが、V-Station を異なるコンピュータにインストールする場合は、ダウンロードしたファイルをリムーバブルのメディアを使用してオーディオ・ワークステーションに移動してください。プラグインのインストーラは、ファイルサイズの節約のために、圧縮されています (解凍するには、WinZip や Stuffit Expander 等のツールが必要です)。

2) ダウンロードに含まれる「V-Station PowerCore Installer」インストーラを起動します。インストーラは、V-Station PowerCore をシーケンサーの VST プラグイン・フォルダにコピーします (例：C:\Program Files\Steinberg\VST Plugins)。インストーラが正しいフォルダを選択しなかった場合は、V-Station PowerCore.dll を、使用するシーケンサーのプラグイン・フォルダにコピーします。

V-Station を使用する

アナログ・シンセサイザーと VSTi / Audio Units プラグインに詳しい方は、本プラグインを使い始めるのに戸惑うことはないはずですが、最も重要なパラメーターは MAIN パネルに集約され、使用頻度が高いものはサブ・ページにまとめられています。これらは、画面右上のボタンをクリックすることによりアクセスでき、その内容は特設解説の必要なものはありません。各ページの詳細については、本 CD-ROM に含まれる PDF 書類をご参照ください。アナログ・シンセサイザーに慣れていらっしゃる場合は、次のセクションにて V-Station の機能と構造を簡単に説明いたします。

MAIN (メイン) パネル



メイン・パネルには、V-Station のサウンドの大多数にとって最も重要なパラメーターが集約されています。このパネルには、OSCILLATORS (オシレーター)、5 チャンネルの MIXER (ミキサー)、FILTER (フィルター)、ENVELOPE GENERATORS (エンヴェロープ・ジェネレーター)、LFO が含まれます。これらの言葉の意味が不明の場合は、このまま読み進めてください...

OSCILLATORS (オシレーター)



アナログ・シンセサイザーにとってのオシレーターはギターにとっての弦と例えることができ、V-Stationのほとんどのサウンドにとって、基本的なソースとなります。搭載されている3つのオシレーターは同一の構造を持ち、それぞれのオシレーターは波形の選択やオクターブ/セミトーン/ディチューンのコントロール等が行えます。オシレーターを様々な方法で組み合わせることにより、様々なサウンドが得られます。波形は、4種類から選択できます (sine, triangle, square, sawtooth)。各オシレーターのPWM (pulse width modulation = パルス幅変調) も調節できますが、V-Stationのユニークな機能として、PWM を全ての波形に対して調節することができます。この機能により、基本的なサウンドに躍動感を与える幅広いバリエーションが得られます。パルスワイズはマニュアル/フィルターのエンベロープ・シェイパー/LFO2のいずれかを選択できます。フィルター・エンベロープ/LFO1でオシレーターのピッチを変調できます。

MIXER (ミキサー)



3系統のオシレーターのレベルを調節するための5チャンネル・ミキサーです。3系統のオシレーターに加え、特種効果用のリング・モジュレーターとノイズ・ジェネレーターをミックスできます。リング・モジュレーターは、オシレーター1と2の信号に対して、その和と差の周波数を出力します。この機能は、不協音や金属的な音を作成するのに使用できます。ノイズ・ジェネレーターは、音程感の希薄なドラムや特種効果のサウンドを作成する用途に使用できます。

SOLO ボタンは、各サウンド・ソースを単体で発音させます。音色の作成中に、サウンド全体を構成する各成分を単体で聴く用途に便利です。

FILTER (フィルター)



V-Station のローパス・フィルターは、Novation 社の「リキッド・アナログ」テクノロジーの中核ともいえる部分で、実物のアナログ・フィルターの持つユニークな特徴を正確にモデリングしています。フィルターは、専用のエンヴェロープ・ジェネレーター／LFO2 から変調できます。レゾナンスは、なしの状態から絶叫の様な極端な設定までの可変は場を持ち、O-DRIVE コントロールのディストーションによりさらなるエッジを加えることができます。

フィルターは、12dB と 24dB/Octave の特性を選択できます。

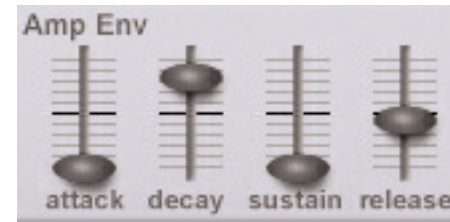
12dB の設定は、古い日本製のシンセサイザーをエミュレートするのに適しています。よりパンチのある 24dB の設定は、古いアメリカ製のシンセサイザーなどのサウンドに近いと言えます。

MOD ENV (モジュレーション・エンヴェロープ)



MOD ENV は 4 ステージのエンヴェロープ・ジェネレーターで、様々なフィルター・スイープに使用できます。MOD ENV はシンセ・ベース、スウェル、プラス風のアタック成分などにも有効です。MOD ENV は、さらに 3 系統のオシレーターのピッチと、波形のパルスワイズ変調に使用できます。

AMP ENV (アンプリチュード・エンヴェロープ)



4 ステージのエンヴェロープ・ジェネレーターで、サウンド全体の音量の経過を「形成」します。このエンヴェロープで、シャープでパーカッシブから、スローで「レガート」風まで、サウンドの音量の変化をコントロールします。

LFO 1 / 2



これら 2 系統の LFO (low frequency oscillator = 低周波発振器) は、音程と音色を変調するコントロール信号を供給します。LFO はそれぞれいくつかの波形から選択でき、様々な効果に使用できます。LFO1 は、典型的にはビブラートなど音程をスイープする効果に、LFO2 はフィルター・スイープや PWM に使用します。LFO の速度は、スピード・コントロールの上にある 'LED' の点滅で示されます。各 LFO は MIDI クロックに同期させることが可能で、ここで作成する効果をシーケンサーのテンポと同期できます。

MASTER (マスター) セクション



PROGRAMの▲▼ボタンで、プログラムを選択できます。付属する200のプリセットを順番に試すのに使用できるため、はじめにこのボタンでV-Stationのサウンドを体験してみてください。これらのサウンドに変更を加えて、保存することも可能です。このセクションには、マスター・レベルのコントロールも含まれています。

このセクションの下には、使用しているヴォイスを示す横のメーターが搭載されています。MIDI受信のインジケータも搭載されています。

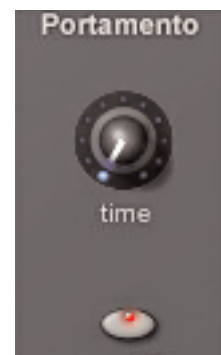
ARPEGGIATOR (アルペジエーター)



V-Stationのアルペジエーターは、複雑なシーケンスを構築する鍵となる機能です。アルペジエーターのパターンは最大4オクターブに渡り、多くの種類 (up、down、up/down、random等) から選択でき、楽曲のテンポ同期とフリーランのいずれかを選択できます。

V-Stationのインスタンスごとに独立したアルペジエーターを使用でき、お互いを同期させることが可能なため、お互いに絡み合うリズムや、メロディックなサウンドスケープを構築できます。

PORTAMENTO (ポルタメント)



音程間の移動を「グライド」させます。ヴィンテージ・シンセやRoland TC303™のスライド機能のエミュレーションをよりリアルに行なえます。

ポルタメントは、モノフォニック/ポリフォニックで使用できます。



ホスト・シーケンサー側でV-Stationのサウンドにエフェクトを加えるのは簡単ですが、V-Stationでは、サウンドの一部として使用できるマルチ・エフェクトを内蔵しています。

V-Stationは、様々なディレイ/エコー、リバーブ、コーラス/フランジャー/フェーザー、ディストーション、EQ、オートパンを搭載し、これらは全て同時に使用できます。用途に応じて、これらをMIDIクロックに同期させることも可能です。

当然、エフェクトはインスタンス毎に使用できますが、使用できるCPUパワーに影響を与えます。CPUパワーが不足しはじめたら、ON/OFFスイッチでエフェクトをOFFにすることにより、パワーを節約できます。

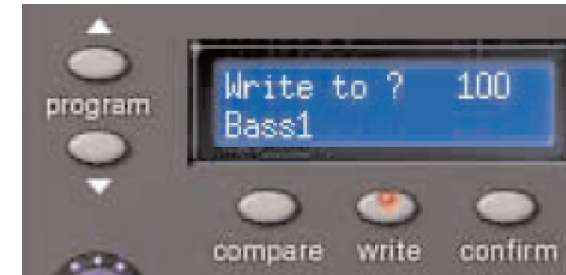
プログラムとバンク

プログラムの選択

V-Stationは、200にファクトリー・プリセットを含む、合計400のプログラム・メモリーを持ちます。

プリセットの選択には、ウィンドウ左下にあるLCDの左側のPROGRAMの▲▼ボタンを使用します。V-Stationのサウンドをご体感いただくには、まずはこれらのプリセットをお試しいただくことをお勧めいたします。幅広いシンセ・ベース、パッド、アルペジエーターなどが搭載されています。これらのサウンドは、自由に変更したり、変更したサウンドを保存することができます。

プログラムの保存



サウンドに変更を加えたものが気に入った場合は、そのサウンドを保存できます。サウンドを保存するには、LCDの下にあるWRITE（書き込み）ボタンを押します。ディスプレイ上に、保存場所を指定する指示が表示されます。元のサウンドを上書きする場合は、CONFIRM（確認）をクリックします。エディットしたサウンドを元のサウンドとは別の場所に保存したい場合は、PROGRAMの▲▼ボタンで保存先を指定し、再度WRITEを押します。

WRITEの操作をキャンセルするには、再度WRITEを押します。

サウンドのエディット中に、オリジナルのサウンドと聴き比べを行ないたい場合は、COMPARE（比較）ボタンを押します。

バンクのロード/セーブ

ほとんどのホスト・シーケンサーは、サウンドをバンク単位でロード/セーブする機能をサポートしています。これは、例えば、ご自分のサウンド・ライブラリをお持ちで、V-Stationで作ったテクノ向けのサウンドをひとまとめに「Techno」バンクとして保存し、ヴィンテージ・シンセのエミュレーションを行なったプログラムは「Vintage」バンクにまとめる、といったことを可能とします。この様に、V-Stationのサウンドをカテゴリーごとに整理することができます。

さらに、V-Station用のサウンドがバンク単位でインターネット上にアップロードされている可能性があります。バンクのロードとセーブの方法については、シーケンサーのマニュアルをご参照ください。

NOTE: ここでの「バンク」とは、プラグインからロード/セーブできるサウンドのコレクションを意味します。シーケンサーによっては、同様の機能を持つ機能に対して、異なる名称を使用しているものがあります。

ロード/セーブについて

一般的に、シーケンサーから情報をロード/セーブするには、3つの方法があります。まずは、一番大きい括りとして、ソングの保存が挙げられます。これは、作成した音楽のデータに加え、その時点でのV-Stationの設定も保存します。後からソングを開くと、V-Stationのサウンドも再現されます。サウンドをエディットした場合であっても、ソングを開いた時点で、そのエディットされたバージョンが開きません。

次に、V-Stationのインターナル・メモリーにサウンドを単体で保存できます。作業中のソングでV-Stationを使用する時には、ご自分で作成して保存したサウンドを使用できます。

多くのサウンドを作成して保存している場合は、これらをバンク（シーケンサーによっては別の名称を使用している場合があります）として保存し、ソングの情報とは独立してV-Stationにロードできます。例として、作業中のソングで、お好みのサウンドが見つからないとします。その場合は違うバンクを呼び出すことにより、400の異なるサウンドからお好みのものを選択できます。

ほとんどの場合においては、作業中のソングでV-Stationをインサートしてからサウンドを選択、場合によってはそのサウンドを微調整し、ソングを保存してシーケンス・ファイルを作成する、といった手順で問題ないでしょう。ソングを再度ロードした時点で、V-Stationはその設定とともに開きます。WRITEとSAVE BANKのオプションは、ご自分で作成したサウンドのライブラリを構築するためのものです。

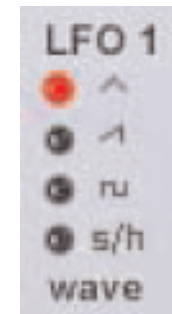
サウンドのエディット

V-Stationのパネルは、K-Stationのパネル同様にエディットできます。変更したいコントロールにマウスを移動すると、選択したパラメーターとその値がLCDに表示されます：



コントロールをクリックし、マウスを上下に動かします。コントロールを移動すると、ディスプレイ上の値が変わります。

スイッチは、クリックすることによりをエンネーブル/ディスエーブルできます。



オシレーターやLFOの波形、オシレーターのオクターブ、フィルター・スロープ等は、LEDを直接クリックすることにより選択します。

下記の様な一部のパラメーターは、ドロップダウン・メニューからアイテムを選択することにより設定を行ないます。



クリック-ホールドしながらドロップダウン・リストから選択を行ない、希望の設定値でマウスをリリースします。

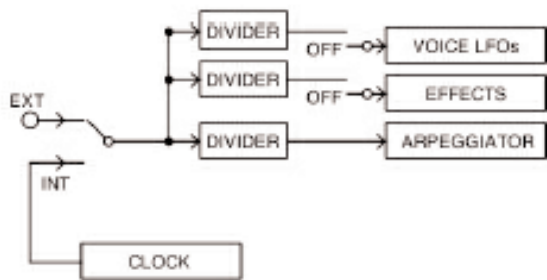
ホイール搭載のマウスを使用している場合、パネルでホイールを使用できます。カーソルをツマミあるいはスライダー上に置き、クリックする必要なく、そのままホイールで値を設定できます。マウス・ホイールは、ドロップダウン・メニューでも使用できます。マウスをドロップダウン上に置き、スクロールするだけです。

MIDI クロック・シンク

V-Station は、デフォルトでシーケンサーのテンポに同期し、アルペジエーターはこの外部クロックソースに同期する設定となっています。アルペジエーターを ON にするかアルペジエーターを使用するサウンドを選択すると、自動的にソングのテンポに同期します。アルペジエーターのレートは、テンポに対する倍率を設定できます（例：テンポの半速／倍速、等）。GLOBAL ページで外部シンクを OFF（INTERNAL に設定する）ことにより、ソングのテンポとは独立したスピードで走らせることもできます。この場合、レートは EXTRA ページの TEMPO で設定します。

さらに、エフェクトと LFO もソングのテンポあるいはアルペジエーターのレートと同期できます。これは、SYNC RATE を任意の値（16分、8分、等）に設定することで行ないます。

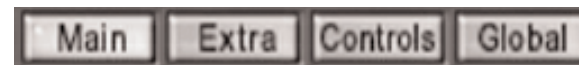
LFO とシンク可能なエフェクトの SYNC パラメーターが OFF の場合は、それぞれの速度あるいはディレイの設定に従ってフリーランを行ないます。エフェクトあるいは LFO がシンクする設定の時に GLOBAL ページのシンクが INTERNAL となっている場合は、フリーランを行なっているアルペジエーターのクロックが適用されます。次の（簡略化された）ブロックダイアグラムをご参照ください。



当然、各 LFO はそれぞれ独立したシンク設定とディバイダーを、そして同期可能なエフェクトも独立したシンクの設定が可能です。こうすることにより、一部のエフェクトと LFO を同期しながら、残りはフリーランさせることが可能となります。

その他のページ

V-Station のほとんどの機能は MAIN パネルに集約されていますが、使用頻度がさほど高くなく、ディープなパラメーターが他のサブ・ページからアクセスできます。これらは、ウィンドウの右上から選択できます：



その他のページにアクセスするには、ボタンをクリックします。概要は、次の通りです。

EXTRA (エキストラ) ページ



オシレーター／LFO／エンヴェローブ／アルペジエーターの使用頻度の高くないパラメーターを設定できます。このページのコントロールの詳細については、インストール CD-ROM に含まれる PDF 書類をご参照ください。

CONTROLS (コントロール) ページ



ここでは、ピッチベンド、モジュレーション・ホイール、アフタータッチ、ブレスコントローラーなどのコントローラーがどのようにピッチ、フィルターのカットオフ、エフェクトバランス等に影響を与えるかを設定できます。このページのコントロールの詳細については、インストール CD-ROM に含まれる PDF 書類をご参照ください。

GLOBAL (グローバル) ページ



このページでは、マスター・チューニング、クロック・ソース（インターナル／エキスターナル）、ヴェロシティ・カーブなど、V-Station 全体の動作に関わるパラメーターを設定できます。さらに、ファクトリー・プリセットの復帰や、「本物の」K-Station からサウンドをインポートするなどの操作も行えます。このページのコントロールの詳細については、インストール CD-ROM に含まれる PDF 書類をご参照ください。

最後に

以上で、V-Station PowerCore プラグインの概要は完了です。CD-ROM に付属する英文の Complete Operational Manual を参照しないでも、実験により多くのクリエイティブな可能性を開けるはずです。

しかしながら、V-Station のすばらしい機能の数々をフルにご理解いただくには、CD-ROM に含まれる他の PDF 書類をご一読ください。V-Station の機能の詳細な解説のみならず、アナログ・シンセシスの全体の簡単な解説がございます。

この度は、V-Station PowerCore プラグインをご購入いただき、ありがとうございました。長年に渡り、お楽しみいただけることを願っております。－ V-Station PowerCore プラグイン開発チー